かせかけ

2023

沖縄県立看護大学広報誌
Okinawa Prefectural College Of Nursing

Vol.35

Contents

- 新入生の声 01
- 学生生活紹介 02
- 退職された教員からのメッセージ 07
- のぞいてみよう！看護大学 08
- 国際交流 10
- 卒業生の声 12
- 学生ボランティアの紹介 13
- サークル紹介 14
- 学生支援 16
- 新入生歓迎球技大会 17
- 卒業生、修了生からのメッセージ .. 18
- 地域貢献だより 20

Voices of

新入生の声

new students

1 Comment

看護学部1年次

宮里 咲綾
Miyazato, Saaya

私は、沖縄県の医療の場で活躍する看護職者になりたいという思いをもって沖縄県立看護大学に入学しました。大変な部分もありますが、授業やグループワークを通して、新しい知識や、自分には無かった考え方に出会うなど、沢山の刺激があり、楽しみながら学習に励んでいます。また、友人らとも助け合い、充実した学校生活を送ることができています。これからも、色々なことを学び、経験を積んで、自分の目標に向かって頑張っていこうと思います。

2 Comment

別科助産専攻

祖堅 琴己
Soken, Kotomi

私は、地域で母子やその家族、女性を支援できる助産師になりたいと思い、別科助産専攻に入学しました。前期は講義やグループワーク、演習、課題と忙しい毎日で辛いこともありましたが、同じ志を持った仲間と励まし支えあいながら乗り越えることができました。今は助産実習へ向けて準備を行っています。実習を受け入れてくださった方々に感謝し、これまで学習してきたことを実習で活かし学びを深め、母子とその家族に寄り添う助産師になれるよう頑張っていきたいと思います。

3 Comment

大学院
博士後期課程1年次

松田 めぐみ
Matsuda, Megumi

私は本学看護学部を卒業後は、保健師として市町村や地域包括支援センターに勤務し、地域で暮らす高齢者やその家族に関わらせて頂きました。これまでの経験を糧に、看護職として実践家であることを大切にしながら、大学院での授業や先生方の指導などを通して研究に関する学びを深め、その学びは高齢者をはじめとした関係する方々に返していけたらと思っています。

学生生活紹介

STUDENT LIFE

STUDENT LIFE CASE 1

新しい環境下で少ない男子の人数に戸惑うこともありましたが、楽しく勉学に励んでいます。

看護学部1年次

榮野比 大輝

Enobi, Daiki

入学して間もないころは看護大学ということもあり、新しい環境下で少ない男子の人数に戸惑うこともありましたが、本校はグループで活動することが多く、自然とメンバーと仲良くなり今では男女関係なく多くの人と協力しながら楽しく勉学に励んでいます。

高校生の時の勉強に比べると、実習や講義、その中でのレポートなど専門的に学ぶことも多くなり大変だと感じることもありますが、周りには同じ目標に向かって切磋琢磨する仲間がいることはとても励みになります。

一年次の前期にある早期体験実習では、「まだ入学したばかりの知識でどう実習を受ければいいのか？」という不安もありましたが、自分が目指す看護師や保健師という職業がどのようなものなのかを一年次から拝見し体験することができるのは貴重な経験になります。また、それによって早い時期から自分の将来をより明確に考えることができるのも早期体験実習の魅力だと感じました。

これからも多くのことを学び、体験して、仲間とともに夢に向かって頑張っていきたいです。

教員のサポートについて

SUPPORT

1年次部会長　山口　賢一

1年次部会としての学生支援

1年次部会では、新入生の皆さんの**学生生活に関するサポート**をしています。4月には個人面談を行い、科目履修の助言、ワクチン接種状況の確認、友人関係や経済状況で困ったことがないかの聞き取りをしています。コロナ禍以前に行われていた新入生宿泊研修に代わって、今年度は学内でオリエンテーションを実施しました。少人数のチームに分かれて、学内や大学周辺でミッションをクリアしていく、チームビルディングの要素を取り入れたものでした。チームのメンバーだけでなく、ボランティアで参加していた上級生や、教職員とも触れ合う機会になったかと思います。

STUDENT LIFE CASE 2

実際に現場に行くと
授業では習えない現場の雰囲気や
患者さんとの関わり方など、多くの
学びがありました。

看護学部2年次

金城 凛花

Kinjo, Rinka

今年からは対面で授業を行うことができるので、友達と同じ空間で講義を受けられることやおしゃべりができることが嬉しく、日々大学生活を楽しんでいます。二年次からは小児保健看護や成人保健看護などの専門的な分野の講義が増え、講義内容は難しいですが将来の夢に必要となる知識なので理解を深められるよう頑張っています。後期には初めての臨地実習がありました。実際に現場に行くと授業では習えない現場の雰囲気や患者さんとの関わり方など身になる学びが多くあり、看護学生として一歩成長できたと思います。実習は本当に大変でしたがグループメンバーでお互いが辛いときには支え合えながら活動を行ってきたことで乗り越えられ、メンバーとの仲がとても深まったと思います。またボランティア活動では多くの方と出会え、多くの刺激をもらえるのでとても良い経験になっています。

SCHEDULE
1日のスケジュール

実習がない日
- 6:30～ 起床・準備
- 8:00 移動
- 8:40～11:50 講義・自己学習
- 11:50～12:40 昼食
- 12:40～17:30 講義・自己学習
- 17:30～ 帰宅・夕食
- 19:00～ アルバイト
- 23:00～ 入浴・自由時間
- 24:00～ 就寝

実習がある日
- 6:00～ 起床・準備
- 7:00 移動
- 8:30 着替え
- 9:00～12:30 実習開始
- 12:30～ 移動
- 13:00～ 昼食・自由時間
- 15:00～16:30 カンファレンス・記録まとめ
- 16:30～19:00 記録まとめ・調べ学習
- 20:00～ 夕食・入浴・明日の準備
- 24:00～ 就寝

教員のサポートについて

SUPPORT

2年次部会としての学生支援

2年次部会長　山城 綾子

学生会活動支援、履修指導及び**予防接種指導**が2年次部会の主な支援になります。学生会は2年生が中心となって課外活動の企画運営などを行う組織ですが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、主要企画になるはずの看大祭が中止となりました。課外活動を行うには困難な状況が続く中、他学年の学生と協力しながら、自治組織としての活動を模索している様子が伺えます。また、2年生になると看護専門科目が増え学習の難易度が上がるため、それぞれの学生の特性や課題を理解した上での支援が必要になります。3年生のカリキュラムを見据えた指導と対話の工夫も取り入れながら、2年次部会の担当教員は個々の学生のニーズに合わせた学習サポートを行っています。

学生生活紹介 STUDENT LIFE

STUDENT LIFE CASE 3

色々な人に支えてもらいながら過ごしており、今が一番大学生活の魅力を感じています。

看護学部3年次

長嶺 実希音

Nagamine, Mikine

3年次前期は座学中心で、講義はより専門的な内容になります。先生方が経験した事例やゲストスピーカーのお話を聴くことができ、教科書の内容を実際の現場に合わせて具体的にイメージしやすくなります。

コロナ禍での入学ですが、グループ活動・サークル活動・ボランティア活動・地域で活躍している人との交流など、多くの人と関わる中で多様な考え方を身に付けられる所にとても楽しさを感じています。

色々な人に支えてもらいながら過ごしており、今が一番大学生活の魅力を感じています。これまでの学びを武器に新たな学びに希望をもって、後期実習に挑みたいです。

教員のサポートについて

SUPPORT

3年次部会長　赤嶺 伊都子

3年次部会としての学生支援

3年次では、演習科目と実習科目が11月から2月まで長期に続きます。学生は、朝早くから実習に参加し、受持ち患者さんへの看護を提供するための学習をしています。また、実習課題も多く、体調を管理しながら実習に参加する必要があります。

これらの学生を支援するのが担当教員です。1グループ（20名）に2名の担当教員で、計8名の教員が3年次の学生支援を行っています。3年次部会で学生の情報を共有し、**学生の学習状況や、メンタル不調・体調不良などの学生を把握し、気になる学生へは、面談を行う**など、学生が実習へ適応できるように支援を行っています。また、国試対策や就活など先輩から情報が得られるように**3・4年次交流会の開催**や、**県内看護職員採用説明会の企画**など、進路・就活支援と国試対策への支援を行っています。

STUDENT LIFE CASE 4

忙しい中でも満足感や達成感は多く、高みを目指す仲間と共に充実した日々を送っています。

看護学部4年次

東恩納 愛海

Higaonna, Ami

4年生では、5月～7月にかけて前期実習があります。病院実習では患者さんの笑顔や「ありがとう」という言葉には、看護の楽しさや魅力を改めて感じることができます。また、この時期は就職活動も始まる為、実習との両立で多忙な日々になりますが、看護職という夢が現実味を帯びてくる時期にもなります。

9月～11月には最後の実習があり、その後は卒業論文、国家試験の勉強も並行して行います。先生方のサポートや仲間と切磋琢磨し、最後までやり遂げる時期になります。

私自身、忙しい中でも満足感や達成感は多く、高みを目指す仲間と共に充実した日々を送っています。

教員のサポートについて

SUPPORT

4年次部会としての学生支援

4年次部会長　牧内　忍

4年次部会では、各グループの担当教員ごとに、「**進路支援**」、「**国試対策**」の他、就学資金申請や予防接種のすすめなどの**生活指導**なども行っています。年度前半、就職セミナーなどでエントリーシートの書き方や面接対策について学んでもらい、教員も就職活動をお手伝いしました。就職活動が実を結んだ学生が増えてきたので、年度後半は、国試対策支援が中心になります。効果的な国試対策講座の準備をしているところです。4年次のみなさん、無事に卒業・就職にたどりつき、将来、社会で活躍できる看護職者になってください。

学生生活紹介 STUDENT LIFE

STUDENT LIFE CASE 5

実習での経験は「人生における大切な財産」となりました。

別科助産専攻

奥本 乃愛

Okumoto, Noa

別科助産専攻の1年間を紹介します。前期はグループワークを中心とした講義・演習が多く、クラスメイトとの熱いディスカッションで視野が広がりました。同時に就職活動を行う日々でした。7月には実技試験、期末試験対策としてクラスメイトと協力し、支え合いながら日々勉学に励みました。

後期は、実習が中心となります。8月からの助産実習では、分娩介助のために夜間から朝方までオールナイトで対応することもありました。実習を通して10名の方々の分娩介助を行うため、緊張感のある日々を過ごしました。学生を快く受け入れてくださった妊産婦やご家族の皆さん、実習先の助産師さんなど、多くの方々に支えられながら学びを深めることができ、実習での経験は「人生における大切な財産」となりました。別科助産専攻では忙しい日々が続き大変だと感じることも多いですが、同じ目標をもつクラスメイトと、それを全力でサポートしてくださる先生方のおかけでとても充実した日々を過ごすことができました。

教員のサポートについて

SUPPORT

別科助産専攻　大城　早苗

別科助産専攻としての学生支援

別科助産専攻の1年間のカリキュラムを紹介します。**前期は講義・演習、後期は実習が中心**となります。特に8月から1月中旬までは12週間の助産実習に続いて、離島実習あるいはウィメンズ・ヘルス実習が展開されるため、実習を中心とした毎日を過ごすことになります。実習が終了すると**助産研究発表会**、そして**助産師国家試験への取り組み**と、1年間を通して次々新しい課題に挑戦・取り組んでいきます。

実習期間中、学生は今までに経験したことのない状況に遭遇することも多く、戸惑いや先の見えない不安に押しつぶされそうになることも多々あります。そこで、節目節目に**個別面談**を行いモチベーションの維持につなげていけるよう支援をしています。

自己の助産実践を振り返る助産研究では、論文作成に向けて個別指導を行い、今後の助産師としてのあり方を考える機会になるよう丁寧にかかわっていきます。国家試験対策では、年4回の業者摸試を取り入れ、1月後半からは学生からの質問に対応できるよう教員の担当日を決め全員合格を目指して支援に当たります。

学生が大切にしてきた「助産師になる」という目標に向かって前進し、そして実現できるよう教員一同力を合わせて支援していきます。

SCHEDULE
1日のスケジュール

実習がない日
- 6:15～6:45 起床・準備
- 6:45～8:15 移動
- 8:15～8:40 授業準備
- 8:40～11:50 授業
- 11:50～12:40 お昼休憩
- 12:40～17:30 授業
- 17:30～21:00 グループワーク・実技練習・個人課題へ取り組む
- 21:00～22:00 移動
- 22:00～23:00 夕ご飯・お風呂
- 23:00～24:00 自由時間・個人課題へ取り組む・明日の準備
- 24:00～：就寝

実習がある日
- 5:45～6:15 起床・準備
- 6:15～7:30 移動
- 7:30～17:00 実習
- 17:00～18:30 移動
- 18:30～20:00 夕ご飯・お風呂
- 20:00～24:00 記録・実習準備
- 24:00～ 就寝

学生たちとの思い出

元 教養科目・専門教養科目 専任教員
現 非常勤講師（心理学、臨床心理 他） 渡久山　朝裕

本学が開学した年から23年間勤務させていただきました。「思い出」と言われれば枚挙に暇がありません。私は臨床心理学関連の専門教養科目で看護職者の卵たちに側面から刺激を与えてきました。講義や演習でも内容に工夫を重ねましたが、学生たちと交流できるその他の機会、例えば、新入生宿泊オリエンテーション、渡嘉敷島研修、軽音楽サークルなどに積極的に参加して、多くの学生たちとたくさん会話をしてきました。友人関係や恋愛、将来の看護師像や自己実現などについて、講義室では見られない個性的な表情で語る青年たちの姿が印象に残っています。教師・学生の境を越えて、看大祭で共にライブ演奏をした思い出は宝物です。

LOOK! のぞいてみよう！ 看護大学

LOOK! #1

島嶼・国際保健看護実習

ー 島嶼と国際の学びを統合したグローカルな視点の育成ー

島嶼保健看護　佐久川　政吉

アジア太平洋に開かれた島嶼県沖縄にある本学の特徴は、**島嶼と国際の保健看護の実際を学ぶことが出来る**ことです。1年次には、「島嶼・国際保健看護実習」として、ローカルな視点から、小規模島嶼（渡嘉敷島、久高島等）で暮らす人々の暮らしや健康課題について、インタビューや地区踏査を通して深めていきます。また、グローバルな視点から県内に住んでいるアジア出身等の人々からの母国の暮らしや文化ついてインタビューを行い、**多様な暮らしや文化の理解**を進めていきます。一緒に、島嶼と国際の学びを統合したグローカルな視点を学びましょう！

LOOK!

#2

LL教室を活用した英語の授業の様子について

英語　山城 綾子

約2年の設計・工事・研修・試用期間を経て、2022年4月に機材やレイアウトを一新したLL（Language Laboratory）教室で授業を開始しました。

語学学習に特化されたLL教室は、座席数を改修前の半数にして座席の間隔を広くとり、パステルイエローを基調とした明るい空間をつくりました。また、テーブル面を従来より広くして各テーブルにモニターを取り付けたことでデジタルテキストや映像字幕の確認が容易になり、発話トレーニングと併用して学習効果を高める工夫をしています。特に座席とテーブルのレイアウトは現場で一緒に考案してくれた学生の助けもあり、快適な学習空間になりました。LL機材を活用した20人以下のクラスで今年度からネイティブスピーカーの教員とともに英語授業を展開しています。

REPORT 2022.10.29

国際交流

「第2回世界のウチナーンチュ・ナースデイ」を開催

MESSAGE

国際交流室運営委員会委員長　大川 嶺子

第2回世界のウチナーンチュ・ナースデイは、1年遅れで開催された第7回世界のウチナーンチュ大会の連携イベントとして、本学、沖縄県看護協会、沖縄県看護学術振興財団、および本学同窓会の主催で、10月29日に開催されました。

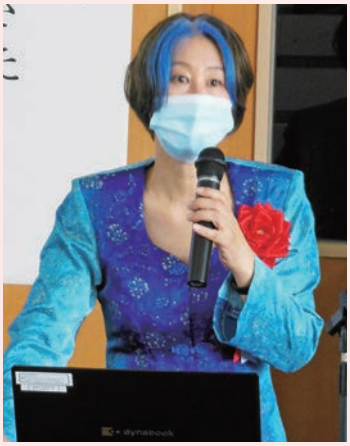
COVID-19 パンデミック下で開催が危ぶまれましたが、無事開催できたことは幸運でした。メインの講演会と 3 つの交流会（ユンタクテーブル）のスピーカーは、沖縄出身および、沖縄で学び海外で看護職として活躍する方々に引き受けていただき、企画した側にとっても楽しみな内容になりました。このスピーカー選びには、第 1 回ナースデー以来培ってきたネットワークが活かせたと思っています。継続は力なり、ですね。

当日は前回を上回る約 140 名の看護職、看護学生、高校生の参加をいただきました。WEB と現地のダブル開催でしたので緊張しましたが、本学の教員と学生の皆さんの協力でスムーズに会が進行しました。終了後の感想からは、スピーカーもボランティアも含めて、みんなで楽しんだナースデーになったのではないかと思っています。また参加者アンケートでは、海外での看護職の活躍に触れることのできる世界のウチナーンチュ・ナースデイを継続して開催してほしい、との回答があり、さらに世界のナースとのネットワークづくりを進めていく後押しを得たように思います。

GUEST

アジア欧州財団備蓄事業ユニット副ダイレクター　藤井 まい

皆様の入念な準備のお陰で大変盛り上がり、私自身も楽しく新しいことを学ばせていただきました。



講演では、他の演者の方々からアメリカや近郊国のお話を伺えると思ったので、私は、世界全体が対象の組織（多国間援助機関）や日本政府の公的な国際協力（ODA）を内容に取り入れました。国際保健や看護はテキスト通りの状況が目の前にあるわけでなく、その時代、場所、状況から一つ一つ全く違う様相を呈することもあります。傾向を事前に学ぶと同時に、現場をしっかりみて活動していくことが大切かと思います。世界で活躍しているうちなーんちゅナースがたくさんいることも体感でき、仲間意識が生まれました。貴重な機会をありがとうございました。

REPORT

准教授　大城 真理子

私は、“世界のウチナーンチュ・ナースデイ”にゆんたくテーブルのファシリテーターとして参加しました。

今回の開催は COVID－19 の状況を鑑み、ハイブリッド形式での開催でしたが、私の担当したテーブルには、現地とオンラインから多くの方が参加をされました。ゲストスピーカーのメディナ（平）裕子さんには、この日に合わせて、アメリカから会場に足を運んで頂き、日本とアメリカの医療制度の違いをテーマに、お話を頂きました。会場からは様々な質問が挙がり、大盛況でした。また、会場にはアメリカで現役看護師として勤務されている沖縄出身者の参加もあり、異なる文化や環境で活動する厳しさ、そしてウチナーンチュとしてのナーシング・スピリッツに大変刺激を受けました。

REPORT

看護学部1年次:　長嶺 綺音

私は世界のウチナーンチュ・ナースデイが行われると知り、実際に海外で働いている看護師に会う機会がないので、お話を聞いてみたいという気持ちから、参加しました。

講話では、世界の国々で起こっている問題や、それによる医療の面での問題について知ることができました。また、日本とアメリカの医療制度の違いについてのお話では、それぞれの国の違いを知ることで、日本にいるだけでは見えてこなかった良さや問題点から、より良い医療について考えることができました。海外で働きたいという方に限らず、地元で看護職として貢献したいという方もグローバルな視野を持つことで、その時々の問題に対応した医療を提供できるようになれると感じました。

REPORT

看護学部3年次:　仲宗根 優杏

今回、「世界のウチナーンチュナースディ」に学生ボランティアの影アナウンサーとして参加しました。

仕事内容は、着席の仕方のお願いや事後アンケートの案内などを、アナウンスすることです。当日、少し緊張していましたが、読み始めると固くならず、来場者の方々に内容が伝わるようにアナウンスが出来ていたと感じています。また、国際看護に関わる講師陣の講演を聞き、キャリアの選択肢を広げるきっかけになりました。来場者の質疑応答では、看護に関連する様々な職種の方々、それぞれの視点からの解釈が興味深かったです。今回の学生ボランティアでは、アナウンスの経験が出来ました。講演や質疑応答で得た情報も合わせて、今後の学校生活に活かしていきたいです。

卒業生の声（体験）

01

清水　一正
（看護学部　第19期生）
社会医療法人葦の会オリブ山病院
回復期リハビリ病棟勤務

「コロナ禍の皆様へ」

コロナ禍の中、皆様は様々な制約が生まれ辛苦な日々が続いていると思います。今、私はその中で看護師として患者の方々の生活を支えさせて頂いています。私からお伝えしたいのは、心の健康を保てる様に過ごしていただきたいということです。心の健康を損なうと頑張ることや生きることを辛く感じることも起きてしまうからです。

コロナ禍で、私の心の健康を支えてくれたのは、家族や同僚の優しい関わりでした。自分は独りではない、支えてくれる人が居る。その事だけで心が楽になり、ゆとりを持てました。

皆様には、各々の心の休め方があると思われます。人との関わりや趣味であったり。ただ、苦しい・辛い時はむりをなさらず休んだり逃げて下さい。自分の心を理解して守ってあげられるのは自分自身ですので。

02

濱川　奈々
（看護学部　第19期生）
那覇市保健所
地域保健課 保健師

「新人保健師としてコロナ禍をどう乗り越えたか」

私は、保健師として地域で働きたいと考え、大学卒業後に那覇市へ就職しました。就職した1年目は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、通常業務に加え疫学調査業務もあり、想像以上に多忙を極め体調を崩すこともありました。

現在、私が保健師として働き続けられているのは、地域住民の健康のために働きたいという気持ちと私を支えてくれる家族・友人及び職場の方々の存在が大きいです。大変な時は、家族や友人へ話すこと、上司と相談し業務量を調整することで乗り越える事ができました。改めて一人で抱え込まず、誰かに話す・頼ることが大切だと痛感しています。皆さんもこれから、様々な場面で困難に直面するかと思いますが、自分の体や心も大切にすることを忘れずに頑張ってください。

03

宮城　栞
（看護学部　第18期生）
琉球大学病院

「新人看護師としてコロナ禍をどう乗り越えたか」

私が配属された病棟では、コロナに感染した重症の患者さんとかかわることもあります。新人看護師として働き始めたときは、未知の感染症に対する不安や実習での経験と実際の医療現場とのギャップに戸惑いを感じることもありました。しかし、大学時代からの友人や病院で新しく出会った同期達のおかげで、みんな同じ気持ちを抱えながら頑張っているんだと実感することができ、自分も頑張ろうという励みになりました。

こうした友人や同期からの励ましや先輩達からのアドバイスをうけ、少しずつ看護師として成長することができました。これからもさまざまな壁を乗り越えながら、成長していきたいと思います。

04

山川　倫代
（別科助産専攻 第14期生）
沖縄県立八重山病院

「新人助産師としてコロナ禍をどう乗り越えたか」

沖縄県立八重山病院産婦人科病棟で助産師として働き始めて4ヶ月が過ぎました。医療現場では、コロナ陽性の妊婦が急増し、フルPPE※でケアを行う大変さ、感染への恐怖もありますが、隔離を余儀なくされた妊産婦の不安を少しでも和らげるためには、医療者の関わり方が非常に大切だと感じています。

また石垣島では、出産できる施設が1つという離島ならではの特徴があります。コロナで産前教育も十分でない状況の中、妊産婦がこの島で安全に安心して出産育児に向き合えるよう、セルフケア能力を高める保健指導について日々試行錯誤しながら頑張っています。これから、先輩方の背中をみながら、離島で働く助産師として、さらに自己研鑽に励んでいこうと思います。

※PPE：Personal Protective Equipment（マスク・ゴーグルなど感染対策のための個人用防護具）

学生ボランティアの紹介 Volunteer

看護学部3年次　金元　麗瑚

私は、昨年の12月から週に1回神原小学校の朝活動にボランティアとして参加しています。

コロナ禍でオンライン授業になったり様々な活動が制限される中で、何か人の役に立てるといいなと思ってボランティア活動に参加しました。活動内容としては、朝の7時15分から小学生に朝ごはんを提供したり宿題を教えたりしています。朝ごはんを食べて元気に教室へ向かう姿や下を向いて登校していた子が元気に登校するようになった姿を見てとても嬉しくなるし、活動を通して人との繋がり・交流の重要性を実感しました。ボランティアでは実習とは違う学びや気づきがありとてもいい経験になっていると感じています。

看護学部3年次　渡邊　夏菜

私たちは大学の近くの寄宮中学校でボランティアを行っています。

中学校で学校に通えなくなった友達から勉強を教えてもらうのが嬉しかったと聞き、私も役に立ちたいと思ったことをきっかけにこの活動を始めました。そこでは、中学生と勉強をしたり、折り紙を作ったりして楽しい日々を送っています。

今回は、中学校の生徒を大学に招待し、私たちが日々学んでいる看護の体験をしてもらった話を紹介します。そこでは、赤ちゃんの抱っこの仕方やミルクの作り方を通し、お互いに楽しく学びを深めることができました。

活動を始めて半年が経ちましたが、日々生徒が成長する姿を見て私たちも嬉しく思います。みなさんも私たちと一緒に活動してみませんか？

サークル紹介

club activities

new

① 防災サークル「クロスロード」

サークル長　3年次　渡邊　夏菜

初めまして！私たちは、今年立ち上がった「クロスロード」です！

活動内容は、大学・周辺地域の防災意識を高めるために活動しています。今年は1年次へ講座を行い、1年次から防災意識を高める事と、他大学で活動しているサークルに声をかけ、活動のヒントを頂きました。さらに、被災の経験がある先生にお話を伺い、私たちも日々防災について学んでいます。「一人暮らしをしている学生を対象に避難グッズは何を準備したら良いのか」「もし海外で災害にあったら？」というテーマで活動します！高校生の皆さん、一緒に防災活動しませんか？

② コーヒーサークル

サークル長　3年次　野原　詩織

はじめまして。コヒサことコーヒーサークルです。

　コーヒーを片手にリラックスしていろいろな交流ができるといいなと思いサークルをつくりました。週に一回程度ハンドドリップでのコーヒーの淹れ方をみんなで練習したり、休日にカフェ巡りをしたり、ラテアートにも挑戦しようと思っています。学内にある畑では、ハーブを育てていてコーヒーが飲めない人向けにおいしいハーブティの調合を研究しています。最近は、近くの中学校の生徒を学校に招待して畑で採れたハーブを使って流行りのバタフライピティーをふるまいました。勉強に疲れたらひと休みに来てください。

③ 起業サークル

サークル長　3年次　岡本　周大

看護師が社長になれる時代、将来の活躍の場は病院だけとは限りません。

　私たち起業サークルは、多様な働き方を学び、視野を広げられるように、様々なプロジェクトを主体的に行っています。現在は、経営感覚を養うという目的のもと、OPCNオリジナルグッズやWUN※運営グッズ作成などを行っており、その過程での市場調査、商品企画、広告や呼びかけなど、模擬起業体験の一環としてのプロジェクトを行っています。今後は起業経験のある方を招き、勉強会を開いたり、簿記検定などに挑戦したりするなどのスキルアップも考えており、私たちの将来の選択肢をより幅広いものにしていきたいです。

※WUN：World Uchinanchu Nurse day（世界のウチナーンチュ・ナースデイ）

沖縄県立看護大学の 学生支援

学生サポーター　活動紹介

こんにちは、学生サポーターです♪

看護学部４年次　湖城　祐美

私たちは、コロナ禍で様々な活動が制限されている中でも「もっと学生同士のつながりを強くしたい！」という思いを持ち、活動を行っています。メンバーは1～4年次の10名で、異学年間の情報交換を通して、大学生活の不安や困りごとはないか、どうしたら解決できるかなどを定期的に話し合っています。

これまでの活動

・Scoopy Box（学生意見箱）の設置
・異学年交流会、助産師を目指す学生の交流会の開催
・実習着のリサイクル販売　　など

Scoopy Boxへの質問・意見（一部）

「助産師になりたいけど、どうしたらいいの？」
「実習前ってどんな勉強をしたらいいの？」
「サークル以外でも、もっと先輩と交流したい！」　など

初めての大学生活。「楽しみもたくさんあるけど、看護学生は忙しいって聞くし、これからの課題や実習が不安・・・（><）」という方もきっと多いと思います。また、「先輩や後輩とも仲良くなって、看護職を目指す仲間を増やしたい！」という方もいるかもしれません。そんなみなさんの力になれるように、サポートするのが私たち学生サポーターの役目です！

何か悩みがあった時、私たちもみなさんの力になります！

質問や意見があれば、気軽に
Scoopy Boxに
投稿してくださいね♪

volleyball

新入生歓迎球技大会を開催しました！

看護学部3年次　米須　晴斗

コロナ禍の影響により様々な学校行事がなくなってしまっていたため、学生同士の交流があまり出来ませんでした。そんな中で、行事をして大学生っぽく楽しみたい！という声が多く、学生会と有志のメンバーで1から企画して球技大会を開催することになりました。

当日は多くの学生が参加し、すごく盛り上がり大成功を収めることが出来ました。看護学生は忙しくなかなか大学生らしいことができないイメージが強いと思います。ですが、忙しい、出来ないではなく限られた時間の中で何が出来るのか考え自分たちで楽しんでいくことが大切だということを今回学ぶことが出来ました。

これからも、「出来ることを一生懸命」をモットーに学校を盛り上げて行きたいと思っています！

2022.6.05

卒業生、修了生からの

学部生

Messages from Graduates

メッセージ

令和3年度卒業式・修了式で大学の思い出、
後輩へのメッセージをいただきました。

別科

大学院

大学の地域貢献活動

那覇市立与儀小学校 養護教諭 島袋 久良々

私は、看護大1期生です。ご縁あって、本大学と同じ地域の与儀小学校で養護教諭をしています。昨年度より、看護大と連携し学生ボランティアの地域貢献活動に取り組んでいます。看護大生ならではの視点を活かして、児童のメンタルサポートや学習サポート、保健行事への参画など、地域連携を図っています。子ども達に寄り添った支援をしてくれる看護大生との時間を、子ども達はとても楽しみにしています。

このような地域貢献活動に携わることができ、看護大学での学びや人との繋がりに感謝しています。また、本大学は同期との繋がりもとても強いです。地域や病院で活躍している仲間と健康教育をしたり、社会にでてからの連携も図っています。これからも、本大学で得たネットワークを大事に、自分自身にできることをしていきたいと考えています。

（令和5年度）

2023年度 行事予定

2023

4月	入学式　前学期授業開始
5月	5月15日開学記念日
7月	オープンキャンパス
8月	夏季休業　ハワイ研修
9月	看大祭（夏季休業のうち2日間）
10月	後学期授業開始　大学院入試
11月	特別選抜入試
12月	学習成果発表会（看護学部4年次）

2024

1月	大学入学共通テスト
2・3月	一般選抜入試
3月	卒業式（看護学部）
	修了式（大学院、別科助産専攻）

広報誌タイトル「かせかけ」について

「かせかけ」とは

綛（かせ）とは紡いだ糸を巻く道具。この道具を使って織物用の糸を巻いていく様子を「かせかけ」といいます。愛する人を想って糸を巻く、そのような情景を描いた踊りは、琉球古典舞踊、「七踊り」の一つにも数えられています。大切な想いを丹念に紡ぎ、そして形にしていく「かせかけ」のテーマは、学びを重ねながら成長する学生たちの大学生活にも通ずる部分がありそうです。広報誌「かせかけ」では、そのような学びの一コマ一コマを取り上げてお伝えします。

Okinawa Prefectural College Of Nursing

沖縄県立看護大学 広報誌

公立大学法人沖縄県立看護大学　広報誌
〒902-8513　沖縄県那覇市与儀１丁目24番１号
TEL（098）833-8800（代表）
FAX（098）833-5133
大学ホームページ　https://www.okinawa-nurs.ac.jp/

編集：沖縄県立看護大学／大学広報委員会
発行：2023年3月